



76. ウバガイ *Pseudocardium sachalinense* (Schrenck) 図版31

英名 Japanese surf clam, Sakhalin surf clam

露名 сахалинская мактра

地方名(北海道) ホッキガイ、ホッキ

漢字 うばがい ほっきがい
姥貝、北寄貝

アイヌ語名 ボッセイ、ツウツウレップ、ニシホッケ

【形態】 殻は三角形に近い卵形で、厚く重い。殻頂*の下の弾帯受*は大きい。主歯*は小さく、深い溝を伴った前後側歯*は特に強い。殻表には殻頂を中心とした同心円状の粗い成長脈*が刻まれ、稚貝*では黄色、成貝*では暗褐色あるいは灰黒色の殻皮*をかぶる。殻の内面は白色で、套線*の湾入は浅い。足部の先端は灰紫色である。

【生態】 鹿島灘^{かしまなだ}以北から北海道、朝鮮半島北部、沿海地方、千島およびサハリン沿岸の潮間帯*から水深20mの海底に分布し、河川水の流入や有機物の堆積^{たい}が少ない細砂底に潜って生息する。潜る深さは殻長*の1.5～2倍の範囲で変わり、夏に浅く、冬に深くなる。水管*を海底上に伸ばして、入水管*から海水を吸い込んで呼吸を行うとともに、海水中の植物プランクトンやデトリタス*をえらでこしとって食べる。

産卵期は、水温が13～15℃になる5月下旬～8月中旬である。産卵期が近くなると卵巣は乳白色、精巣はやや赤みを帯びた乳白色になる。卵の直径は70～80μmで、産卵数*は数千万粒に達する。受精後、20～30日間の浮遊期を経て殻長260～300μmに成長すると、成員の生息域よりもやや深い所に着底*し稚貝となり、その後1歳までに成員の生息域に移動する。移動には、波浪や潮流などの物理的な影響力が強く働く。着底初期の稚貝は、糸状の足糸*を伸ばして砂粒に付着するが、その力は極めて弱い。

1歳で殻長0.5～1cm、2歳で2～4cm、3歳で3～7cm、4歳で4～8cm、5歳で6～10cmになるが、その後の成長は遅くなる。3～4歳で性成熟*する。寿命は30年以上といわれる。殻長の伸びは、春から秋にみられ、冬に停滞する。

八雲と別海やくも べつかいのウバガイ漁場で稚貝の生残を調べた結果、着底した稚貝の約99%は2歳までに、2～4歳でも年間22～50%は死ぬことが分かった。この主な原因には、波浪や潮流による岸への打ち上げ、流水や結氷による破損および外敵生物による食害が指摘されている。外敵生物には、ヒトデ類、タマガイ類*、カレイ類などが挙げられる。